

中学校英語科における活用型学習活動の展開と教室での学びについて

兵庫県立大学附属中学校 坂本 南 美

はじめに

新学習指導要領の導入にあたり、小中高等学校を通じた英語科の目標として、コミュニケーション能力の育成が掲げられている。Canale と Swain(1980)はコミュニケーションの要素として、文法的能力、談話能力、社会言語能力、方略的言語能力の4つを挙げた。また、Backman(1990)は、コミュニケーション能力を構成する語用論的能力の1つとして、発話内能力を挙げている。これは、考えや感情を持ってそれらを表現する機能、物事を処理し何かを達成する機能、問題の解決法を発見していく機能、何かを構想し、創造していく機能を果たす能力であると考えられている。本発表では、コミュニケーション能力の育成を目指した活動として活用型学習を盛り込み、授業を言語材料の定着と活用型学習の二つの柱のもとに捉え、授業を通じた生徒たちの成長過程を考察する。

授業実践

本実践は、2011年4月から2012年3月まで兵庫県公立中学校の1年生40人のクラスで行った。授業は、新しい言語材料を理解、習得、定着させるための学習と、発展的な活用型学習の2つを軸に展開した。それらを授業の中につながりを持つ2つの帯学習として位置付けた。帯学習とは、毎時間の授業のはじめに行う意味を持った一連の活動を指し、1年を通して連続性を持たせるものである。実践では、表1に示すように routine 化された授業初めの帯学習1に加えて、授業最後の時間を利用した活用型学習の帯学習2を導入した。授業は50分を3つのパートに分けて捉える。始めに動的な活動を通して言語材料の定着をはかる帯学習1を展開し、本時の学習によって触れる文法や談話的側面の理解を深めることを目的とした。次のパートでは教科書を用いた活動を中心に展開した。最後のパートでは、学んだ言語材料を使った活用型学習のつながりを作り、これを帯学習2とした。帯学習2は帯学習1とは性質が異なり、学習者の learning stage や興味、今必要な課題に合わせて流動的に導入していく学習である。ここでは、読む・聞く・話す・書くという4技能の区別を超えてコミュニケーション能力の育成を意識した活用型活動を展開した。

表1 50分授業の大枠

授業展開	内 容	時間配分
The first involvement stage	年間を通じた routine 化された活動：帯学習1 (ビンゴ、チャンツ、ペア活動、グループ活動など) 本時の学習と密接に連動している。	5～10分
The second involvement stage	本時の中心となる学習 教科書を軸とし、学習する言語材料を意識して4技能を盛り込みながら、理解、習得、定着に向けた練習や活動。	25～30分
The third involvement stage	活用型学習を含んだ学習：帯学習2（それぞれの活動は一定の期間を持つ） The second involvement stage での学習状況や内容に合わせて、教師が流動的に操作する活動の帯。定着から活用に向けた活動。	10～20分

活用型の学習から学びの広がり

帯学習2では、様々な活用型活動を展開する。活用型学習とは、英語学習の中で学んだ言語材料や培われた知識を使って、思考力・判断力・表現力を高めながら、問題解決に取り組む活動である。単なる言語使用のタスクにとどまらず、生徒達の思考や判断を促すように環境を設定し、広く英語で表現していく姿勢を支援する。1年生では自己紹介、ペット紹介、スキットショー、自分への手紙など身近な話題を中心とした活動を、2年生では自分の街紹介、将来の夢スピーチ、歌の背景紹介、海外への手紙など世界を広げて取り組み、3年生では新聞づくり、未来の街計画、ディベート、スピーチなど空間や時間を越えた活動を意識して年間のカリキュラムを設けている。

本発表では1年生で行った「歌の背景紹介」の活動から広がった生徒たちの学びの様子を紹介したい。2011年10月、英語科の私と国語科教師、学級担任の理科教師の3人で、英語授業で扱っていた歌の背景紹介の活動について話した。英語の授業では、生徒たちは調べてみたい歌を選び、情報を集めてクラス発表会の準備をしていたが、その中に、生徒Kが選んだ「We are the world」があった。担任教師が道徳で世界の飢餓問題について考えて

いた時期でもあり、3人で話し合いこの歌をもとに1つのプロジェクトへ発展させることに決まった。私たちのプロジェクトのゴールの1つは、11月末に行われる学校行事の1つ Art Festival での合唱発表であった。(表2)

表2 プロジェクト実施内容

	授業・行事	内 容	備 考
1	英語(2011.10.26)	歌の背景紹介	好きな歌をクラスに紹介
2	英語(2011.11.1)	リスニング、歌詞の読み取り	英語の歌の聞き取り・内容理解
3	学活(2011.11.7)	飢餓問題にふれる	近年の飢餓問題について考える
4	道徳(2011.11.9)	the story behind the song	Making of the song の DVD を視聴
5	国語(2011.11.15～11.22)	歌詞を考える、メッセージ作成	訳を捉え、自分たちのメッセージを綴る
6	英語(2011.11.1～11.25)	歌おう、伝えよう	発音指導も含めた合唱練習
7	Art Festival(2011.11.25)	合唱	ステージで合唱発表とメッセージ
8	英語(2011.12.9)	リサーチ活動	チャリティのその後を追う

歌の背景紹介の活動では、生徒たちは学んできた英語を使って、クラスで好きな歌や背景、歌手について紹介し、また聞き手にもなり、お互いに感想を伝えあった。学活ではこの歌にまつわる DVD を視聴した。DVD を観た後、生徒たちはそれぞれの想いを日本語でまとめた。ある生徒は、アーティストたちの姿勢に心を揺さぶられながら、その音楽や言葉の魅力について言及し、それらが持つ意味や力を受け止め、英語に対する新しい気づきを綴っていた。合唱発表後、授業では帯学習2は次の活用型活動へ進み、教科書で学んだ英語での手紙の書き方をもとに海外の著名人たちに手紙を書く活動へと入っていった。手紙を送る相手は生徒たちが自由に選ぶことができる。その中で、生徒 S はあの”We are the world”の指揮を執った Lionel Richie へ手紙を書いてもいいかと尋ねてきた。彼はそれまで学んできた表現を使い、教師や友達と言語使用を相談したり、辞書を使って新しい表現も模索しながら、徐々に手紙を仕上げ、2012年1月に Lionel Richie へ手紙を送った。

“Dear Mr Lionel Richie,

(中略) Why did my country have a big earthquake in Tohoku? This earthquake killed many people. And many people are still missing. So, this is my personal request, but I would like you to sing a song for Tohoku. I like songs very much. So I know how much songs give us happiness. People can become happy with your song. If you try to make another song, I will be very happy.

Sincerely, S”

このプロジェクトから感じた想いと東日本大震災への気持ちが重なり、S はそれを手紙という形で英語で表現し伝えることができることに気づいた。Dewey は、子どもの才能と個性を切り拓く教育について、子ども自身の経験が好奇心を喚起し、独創性を高め、強力な願望や目的を創出し、能動的成長を促すものであると提唱した。今回、活用型学習の中で教師たちが生徒たちの学びを広げる機会を作ることで、彼らは学び、考え、自ら教室を出て、英語をコミュニケーションのツールとして使い始めるきっかけを作っていた。Lionel Richie への手紙は、生徒自身の中から起こった声でもあり、授業を通した彼らの能動的な成長だと言える。

おわりに

本発表では、2つの帯学習を持つ授業展開について概観し、活用型学習から発展したプロジェクトによる生徒たちの学びの広がり考察した。言語材料の習得と活用型活動を通した学びをスパイラルに重ねていくことで、生徒たちの中に学習への意識の変化が起こり、そこから能動的な成長に結びついていった。今後私たち教師自身の課題として、またこれからの英語教育への提案として、その能動的な学びを支えながら、生徒にとっても教師にとっても持続可能な活用型活動を展開しながらこれからも授業に取り組んでいきたい。

<参考文献>

- Bachman, L. (1990). *Fundamental considerations in language testing*. Oxford: Oxford University Press.
- Canale, M. and Swain. M. 1980. "Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing." *Applied Linguistics*, 1 (1): 1-47
- Dewey, J. (1938/1997). *Experience and education*. Macmillan

